

TOPICS

＼ 見てみよう! /



## 処方せん

いつも薬局へお持ちいただく「処方せん」、その内容を読んだことがありますか? 最近は手書きのものが減り、専門家でなくても理解しやすくなっています。処方せんの知識をもっていれば、薬局での時間を短縮できるほか、より安全な治療へとつながるでしょう。

### 処方せんの見方

処方せんは、医師から薬剤師へ、薬に関する指示をするための文書です。書かれた内容について薬局では毎回薬剤師から確認を受けると思いますが、自分でも見ておきましょう。

薬の量

「何日分」と書かれている日数や「何回分」といった回数は、簡単に確認できます。

飲むタイミング

人によっては薬を飲む時間帯が限られていることもあるでしょう。「1日3回毎食後」や「1日1回朝食後」といったタイミング(用法)についても、あらかじめ確認しましょう。

薬の形状

薬の名前には必ず「錠」や「カプセル」といった記載があります。飲みづらい粉薬を錠剤やシロップなどに変更できる薬もあるので、ご相談ください。

ジェネリックへの変更

薬代の安いジェネリック医薬品を希望する場合は、「変更不可」欄と「保険医署名」欄を確認しましょう。変更不可の記載がなく、処方が一般名(成分名)で書かれているときは、ジェネリックにすることができます。

処方せんについて

- ① 患者さんの情報
- ② 医療機関の情報
- ③ 処方指示 (薬の名前や量、使い方など)
- ④ ジェネリック医薬品への変更について (10月1日より表記が変わりました)
- ⑤ 残薬がある場合に 薬局に求める対応の指示

※処方せんは公文書です。書き込んだり、書き変えたりしないでください

### 処方せんの「期限」に注意!

処方せんには通常、発行日を「含めて」4日以内という期限があります(図内★)。土日祝日も関係なく4日間です。薬局では原本がなければ調剤はできません。アプリやFAXなどで処方せんのコピーを送っていても期限は延長できないので注意しましょう。



休日には当番薬局もあります。

くわしくは、かかりつけ薬剤師・薬局にご相談ください!

特集

## 感染症にご注意!

新型コロナウイルス流行中にはあまり見られませんが、対策への意識が薄れてきたここ数年は、インフルエンザをはじめさまざまな感染症が増えているようです。

### いま注目の、主な感染症

- 季節性インフルエンザ** かぜのような症状に加え、38度以上の発熱や頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感などの症状が急速に現れるのが一般的です。
- 手足口病** 水ぶくれのような発疹が、手足や口の中、ときにはお尻や顔などにも出ます。「夏かぜ」の一つとして有名ですが、今年は秋になってもまだ流行が見られるようです。
- マイコプラズマ感染症** 発熱、頭痛、倦怠感などの症状に加え、咳が長く続きます。
- ノロウイルス** 激しい腹痛、下痢、嘔吐などの症状を引き起こします。



### 感染経路は「飛沫」「接触」「経口」

原因となるウイルスや細菌は、「飛沫」「接触」「経口」により感染します。咳やくしゃみ、共有しているタオルや食器、お子様の場合にはおもちゃなどにも注意が必要です。

### ふだんから予防が大事!

感染をしないためにも、周りに広げないためにも、予防を心がけましょう。

外出後の手洗い

流水やせっけんによる手洗いは、手指などについていたウイルスや細菌を物理的に除去する有効な方法です。



適度な「湿度」の保持

空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、ウイルスや細菌に感染しやすくなります。室内では加湿器を使用するなど、適度な湿度を保ちましょう。

人混み避ける

外出時はマスクをし、人混みに行かないなど、ウイルスや細菌を寄せ付けないようにしましょう。

こまめな換気

新型コロナ対策でも叫ばれてきましたが、季節を問わず、換気は有効です。

十分な睡眠・休養とバランスの取れた栄養

体の抵抗力を高めるために、日ごろから心がけましょう。

感染症が疑われる場合は、自己判断で薬を服用したりせず、医療機関を受診しましょう。場合によっては合併症を引き起こすこともあります。一度医療機関を受診していたとしても、症状が長引く場合は再度診察を受けてください。

くわしくは、かかりつけ薬剤師・薬局にお気軽にご相談ください!

上田薬剤師会「認定基準薬局」の目印、グリーンクロス看板▶



## はい、お答えします!

Q. お薬は、本人でなくても受け取れますか? 【上田市国分・30代女性】

A. 本人が薬局に行くのが困難な場合などには、処方せんを持参すれば代理の方が処方薬を受け取ることができます。お子さんや認知症の方など、お薬の受け渡しに不安がある方や、お薬を紛失する可能性がある方は、むしろ、お薬を管理できる代理人による薬の受け渡しが望ましい場合もあります。お薬を受け渡すにあたり、必要な情報がありますので、代理の方は本人の病状や薬の服薬状況、残薬の状況などについて答えられるようにしていただくと助かります。処方せんだけでなく、お薬手帳も忘れずに持参してください。

このコーナーでは毎月、読者の方からの質問に薬剤師がお答えします。お薬に対する素朴な疑問、質問、なんでもお寄せください。



宛先 ハガキ 〒386-0012 上田中央6-3-41 週刊うえだ「はい、お答えします!」係  
メール weekly-ueda@po3.ueda.ne.jp FAX 0268-22-6201

